

横浜市立桂台中学校

学校だより



令和8年度 NO.2 令和8年5月25日（月）発行

親離れ 子離れ

校長 笹原 洋子

5月は桂台中では行事の1か月間です。3年生が5月12日（火）～14日（木）の2泊3日で沖縄修学旅行、2年生は5月13日（水）～15日（金）の2泊3日で西湖自然教室、そして1年生は5月14日（木）に鎌倉遠足に行きました。どの学年も大きな事故なく、おおむね予定通りの行動をすることができました。6月号の学校便りで各学年の旅行の様子や振り返り等を掲載する予定です。



中学時代はよく「子どもが親離れ 親は子離れする時期」と言われます。確かに中学生を見ていると、今までは様々なことを保護者の方にやってもらったり、指示されたりしていたのに、中学生になると「自分でやりなさい」「自分で考えて行動しなさい」と言われることが増え、頼る時には親よりも、行動する時間が長い友達を頼りにするような傾向があると思います。時には、保護者の方から「子どもに聞かれても『学校のことはわからないから、友達や先生に聞きなさい』と言ってしまいます」という声を聞きます。私は、その答えはとても良いと思います。そして、子ども達は少しずつ親離れをし、自立の道を歩み始めます。

親が子離れできているか振り返るのによい機会の一つは、子どもの宿泊学習なのではないかと思います。準備の段階からできるだけ子どもに任せられましたか。子どもが失敗したり困ったりしても、友達や近くの大人に支えてもらって、何とか乗り切るだろうと思えたら、きっと子離れできているでしょう。

沖縄修学旅行で民泊をしました。一般の家庭に数人ずつ宿泊し、その家庭の子どもになって過ごします。沖縄らしい様々な体験をさせてもらったり、そのご家族とたくさん話をしたりしてきました。

民泊を終えて集まってきた時に、受け入れてくださった民家の方が口をそろえて「とっても素直な子ども達でしたよ。」と言ってくださいました。そのうちのお一人の方がこんな話をしてくださいました。「とてもきちんとしつけられたお子さんたちでしたよ。子ども達にも『きちんとしているあなた達は偉い。でも、そういうふうに育ててくださったあなた達の保護者が本当はすごく偉いのよ』と話しました。」

中学校生活で子ども達は確実に大人への階段を上り、成長します。心配なこともたくさんありますが、毎日積み重ねていることに自信をもって、親も子も「親離れ 子離れ」をしていきましょう。